

街なかを市民アートでまちづくり

目的 街なかのワクワク感を取り戻し、街なかを元気にしたい

沼津の中心市街地は、かつて人々が行き交い賑わっていました。仲見世商店街、新仲見世商店街、銀座通り、そして、さんさん通り、さらにアーケード名店街という魅力ある通りが連続し、活気ある中心市街地を形成していました。

しかし現在、人々は郊外の大規模店舗に足が向かい、中心市街地はかつての賑わいが薄れてきています。本来、沼津の街なかへ出かけると、いつもワクワクする高揚感が感じられる場所でした。いろいろなものが豊富にあり、たくさんの人たちが集まり、好奇心と興味をそそってくれました。そのような街なかのワクワク感を取り戻せないかと思えます。街なかを元気にしたいと思えます。そのために私たちにできることを提案し、実現したいと思えます。

2017年度に沼津市地域自治課が主催した「地域デザインセミナー」を受託した一級建築士事務所アトリエ結が、セミナー研修生に街なかをワクワクする場にできないかと呼びかけ賛同者が集まりました。2019年12月、机上の空論で終わるのではなく、街に出てできることを見つけ、自らの意志で行動し実践する「街なかを元気にするまちづくりの会」(代表 塩見 寛)を結成したものです。



沼津駅前の大きな壁面



壁で囲まれた味気ない空間

現状 スポンジ化が進行しコンクリート壁面で囲まれた味気ない空間が存在する

かつてビルが林立し、人々が行き交い賑わっていた中心市街地は、現在、スポンジ化が進行し、ビルが壊され、歯抜け状態になり、そこは多くが駐車場となっています。

かつて敷地いっぱいに建っていたビルがなくなると、そこは平面的には駐車場として利用されてはいるものの、コンクリート壁面で囲まれた味気ない空間となってしまっています。

隣同士ほとんど接して建っていたため、壁面にはほとんど窓がありません。

人目に晒すことがなかったコンクリートの壁面が白日にさらされると、窓のない、表情もない垂直の壁のため、それは醜いです。その醜く味気ないコンクリートの壁面を、市民アートで絵を描くことによって、街なかを元気にできるのではないかと考えました。



味気ないコンクリートの壁面



薄汚れたコンクリートの壁面

活動 「街なかを市民アートでまちづくり」構想を提案する

令和2年度

- 2020.08 第1回打合せ会議 事業内容「街なかを市民アートでまちづくり」の説明、今後のスケジュールと実施内容について協議
- 2020.09 現地調査...利用可能な壁面の位置・場所を調査...33壁 17スペース
- 2020.10 第2回打合せ会議 壁に描く絵アートについて、テーマ、コンセプト等を各自パワーポイントでプレゼンテーション
- 2020.12 第3回打合せ会議 コンセプトを明確にする、街全体としての「大きなテーマ」を考える、美術家集団ENと意見交換
- 2021.03 第4回打合せ会議 壁画に描く絵のテーマ、具体的なデザイン募集 スケジュール...構想提案を各商店街に説明する日程、建物オーナーに説明に行く日程 来年度の事業計画予定について
- 2021.03.11~30 5つの商店街組合に「街なかを市民アートでまちづくり」構想提案を説明、意見聴取

課題 建物オーナーの理解・承諾を得、市民とともに「壁に絵アート」を進めていく

コロナ禍のため、予定していた活動が思うようにできず、集まって打合せ会議をすること自体、躊躇していました。ZOOM等によるオンライン会議も検討しましたが、WEB環境が整っていない会員がほとんどだったのが実情でした。

しかし、会員みんなでコンセプトをまとめ共有できたことは大きな成果でした。また美術家集団ENにも参加してもらい、「壁に絵アート」を描くこと、テーマやコンセプトについて意見交換し、事業化への輪を広げることができました。

建物オーナーへの説明、理解、交渉、承諾ということが事業化への大きな課題となります。併せて、市民の眼を街なかに向かせたいと思っています。そのために事業化へのプロセスを市民に広報し、市民とともに進めるために「壁に絵アート」のデザインを広く市民に公募していきたいと考えています。

